

‘19(平成31)年2月28日



3月 釜小だより

横浜市立釜利谷小学校

釜小Web <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kamariya/>



足下を見つめて

学校長 岡野 真由美

暖かい日差しに、駐車場の片隅のタンポポが可憐な花を咲かせる季節になりました。校庭の白モクレンのつぼみもビロードのような皮を脱ぎ始めています。沈丁花は小さな花卉を広げ、遠くまで春の香りを届けようとしています。早いもので、今年度も1か月を残すのみとなりました。

毎年3月を迎えるころになると、一年間を振り返ります。学校では児童や保護者の皆様からいただいた貴重なアンケートを参考にしながら、来年度への見通しと方向性を立てる話し合いを進めています。

そんな中、「脚下照顧（きゃっかしょうこ）」という言葉を見つけました。脚下照顧とは、「足下を照らし、顧みよ」という禅の教えです。つまり、「他に対して責任を転嫁せず、自分の足下をよく見て、自己を反省しなさい。」という意味です。転じて、「履物をきちんと揃えましょう。履物を揃えることで、自分の行いをよく見て考えましょう。」ということをお寺の玄関などには、よくこの四字熟語が掲示してあります。

この言葉を、私たち教師の立場から考えると、「これまでの指導が本当に子どもにとってよかったのかを振り返って考えなさい。」ということになるのでしょうか。私たちの振り返りは、子どもの成長がどのように実現され、どのような変容が認められたかをしっかりととらえるということから始まります。そのために子どもの姿を確認する視点は、いくつもあります。日常生活における挨拶などの礼儀や友達関係などの社会性、学習に対する関心や意欲の育ち、最後まで丁寧にやり遂げる粘り強さ、自分自身の思いを表現しようとする力など、さまざまな場面からとらえることができます。残り少ない平成30年度の日々ではありますが、私たち教師は子どもたちとしっかりと向き合い、振り返りをしていきます。十分目標が達成できた点は子どもの実態と指導方針が合致していたといえるでしょう。不十分だと思われる点については足りないことは何だったのか、また、どんな手立てが考えられたのかなどについて顧みる必要があるでしょう。私たちは常に「学び続ける教師」を目指しています。だからこそ、「脚下照顧」の気持ちを忘れないようにしたいと思うのです。

私は常々、「学校づくりは『あいさつ』『歌声』『掃除』から」と考えています。このことがどれだけ達成できたのか、どうすればよりめあてに近づくことができたのか、では次年度は何をどのように改めて取り組んでいくのか等について、私自身も脚下照顧しながら平成30年度を締めくくっていきたいと思います。

保護者の皆さま、地域の方々には、あらゆる場面でご理解、ご協力いただきましたこと、ありがとうございます。温かい声かけや励ましの言葉、多くの方々にご支援いただいたことに心から感謝申し上げます。また新しい春に向けて、教職員一同、チーム釜利谷として全力で取り組んでいきます。